

(別紙4(2))

事業所名 グループホームじぶんち

目標達成計画

作成日: 平成 29年 2月 17日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36 23 25	入居者同士の関わりの中で、少しずつ変化がみられる。しかし、職員によって、情報量に違いがあり、共有できていないときがある。	<ul style="list-style-type: none"> 「人」としての尊厳を守れるよう支援する。 『気づきの力』のさらなる向上を図り、現状を的確に把握する。 入居者のささいな変化にも気づき、情報を全職員で共有していく。 全職員がその人に合わせた支援方法ができるようにする。 変化に合わせた速やかな対応ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ささいなことでもヒヤリハット報告書を記入して、情報の共有を行う。対応策が必要な場合は、速やかに検討をする。 個人支援経過をもとに、ヒヤリとする場面がないかを確認する。 会議以外でも、情報の共有、意見交換を行えるよう、意見交換ページを活用し、より良い支援に繋げる。 職員同士、お互いに適切な言葉遣いや支援方法を確認していく。 	12 ヶ月
2	48	家事活動や余暇活動など、入居者本人に「やりたい」と思ってもらえるものになりたい。職員がやってしまいがちな家事活動を、職員は「待つ」という心を持ち、入居者にやってもらえるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中での役割を持ち、日々の楽しみにつなげていく。特に食事作りを一緒に行なう。 入居者同士のつながりも大切にしたい支援を行っていく。 職員は「待つ」という姿勢を大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「やりたい」と思ってもらえるような声かけや、やり方の工夫をする。 さらに一覧表を活用して、できること、やりたいことを支援していく。 食事作りで、入居者が参加できる場面をもっと増やす。 職員は、「待つ」という姿勢をもつ。ついやってしまおうとするときは、職員同士で声をかけあい、注意していく。 	12 ヶ月
3	27	記録(個人支援経過)に、事実は記入できるようになった。しかし、そのときの様子や気づいたこと、工夫したこと等の記入が少なく、詳しい様子がわからないときがある。	<ul style="list-style-type: none"> 記入すべき内容を確実に記載していく。 事実のみではなく、その前後の様子なども記録し、他の職員にもわかる内容にする。 日々の様子やケアの実践、気づいたことや工夫したことを記入していく。 職員が互いに記録内容についてアドバイスしあい、より良い記録にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 2016年度作成の用語集を更新、進化させていく。 記載すべき内容について、職員会議で話し合っていく。 他の職員が記入した記録を読み、良いところを取り入れ、アドバイスしあう。会議の中で意見交換を行なう。 言葉の表現などに悩んだら、他の職員にアドバイスを求める。 	12 ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。